2018年(平成30年) 安全衛生防災推進計画

山九(株) 大分支店
支店長 青山勝巳

本社 第11次安全衛生3か年計画

【活動方針】 場所・作業・人毎に適切な安全指示と一人ひとりの的確な危険予知を実施して3大型災害を撲滅する。
【目標】 死亡災害:「ゼロ」 度数率:0.15 強度率:0.01
メンタル休業者率 2018年 = 0.72 (2016年比 1%減)
有所見者率 2018年 = 57.7 (2016年比 1%減)
【重点取組事項】
1. 重大災害撲滅ベース活動の強化浸透
2. 関係・協力会社と一体となった不安全行動の改善
3. 安全に強い監督者の育成強化と業務遂行
4. SSMSの実効性向上のための改善
5. 国内外の環境変化に対応したグループ内の連携強化
6. 従業員の健康づくりの推進

大分製鐵所安全衛生方針

【所スローガン】
『安全文化の再構築！安全と健康を最優先と考え行動』
～弱点を克服し、職場風土の改善を進めよう！～
1. 重点目標
(1)死亡災害・重篤災害ゼロ
(2)総合休業災害度数率 0.10以下、強度率 0.10以下
2. 重点施策
「死亡災害・重篤災害の撲滅に向けた安全活動の推進」
(1)安全ルールと規律を守り、安全最優先行動ができる「人づくり」
(2)直協一体となった規律ある・風通しの良い「職場づくり」
(3)災害リスクの抽出と徹底排除で、安心・安全な「ものづくり」
(4)作業・職場環境の快適化と心身の「健康づくり」

2018年 支店安全衛生基本方針

平成29年は、第10次安全衛生3か年計画の最終年度であり、共通遵守事項6則の遵守・徹底は勿論、各職場において抽出した弱点の改善活動や過去災害の類災防止活動を推し進めてきた。しかしながら、昨年の安全成績は不休災害 2件、軽処置災害2件と計 4件の災害を発生させてしまった。内容的には、現場でのTBM・危険予知がしっかりとできていれば防ぐことのできた災害が大半を占めており、課題が浮き彫りとなった。また、大分製鐵所内では、この12月に墜落・転落による休業災害が2件立て続けに発生しており、改めて高所における安全管理を徹底していく必要がある。
そこで平成30年は、一人ひとりが実作業に即した危険予知を行い、基本ルールを守って安全作業のできる「人づくり」。仲間が危険な行動やルール違反をした際は、お互いに遠慮なく大きな声で相互注意のできる「職場づくり」。職場における危険要因(作業、設備、環境)の抽出と徹底的な排除による安全・安心な「ものづくり」を推進すべく、労使協一体となって取り組んでいく。

《大分支店 重点実施事項》
1. 安全ルールと規律を守り、安全最優先行動ができる「人づくり」
2. 直協一体となった規律ある・風通しの良い「職場づくり」
3. 災害リスクの抽出と徹底排除で、安心・安全な「ものづくり」
4. 作業・職場環境の快適化と心身の「健康づくり」

【2018年 安全衛生管理目標】

【スローガン】 『安全職場の再構築！職場のリスクを徹底的に排除しよう』

【目 標】 墜落・挟まれ等による重篤災害 『ゼロ』
SRA活動による本質安全化 ⇒ (2件以上／四半期)

支店長の基本的な考え

昨年の災害の反省として、 人:『行動前の確認(KY不足)』、仲間:『TBMでの役割周知、声掛け不足』が挙げられる。
本年こそ無事故・無災害を達成するため、全員で下記事項を徹底しよう。
1. 日々の作業における危険を自ら考え、安全な行動を行う
2. 仲間の命と身体を守る為、大きな声での相互注意を全員で行う
3. 管理・監督者は対話、パトロールで抽出したリスク及び作業環境の悪い職場の改善を主管元も巻込み粘り強く行う

2017年 安全衛生活動概況と結果等

1. ルールと規律を守り、安全最優先行動が出来る「人づくり」
① 共通遵守事項6則の現場第一線までの浸透と徹底
② 作業者の安全意識向上(教育・規律向上・人財育成・技能伝承)
2. 直協の連携を深め、風通しの良い元気で規律ある「職場づくり」
① ｽﾓｰﾙﾐｰﾃｨﾝｸﾞ で意見要望を掬い上げ、職場の弱点克服へ改善
② 作業前の確実なTBM、作業中の相互注意強化
3. 災害リスクの徹底排除で安全・安心な「ものづくり」
① ＳＲＡ活動による計画的な職場リスクの低減排除の推進
② 支店及び管理者によるＲＡの計画的実施

(反省点) KY、リスクアセスメントがマンネリ化・形骸化傾向にあり、レベルアップが進んでいない
①基本6則の遵守不徹底(玉掛け作業における1.17災害)
②定常作業におけるリスク抽出が不十分

[具体的な取組み]

※安全ｽﾀｯﾌ：各職場及び支店の専任安全衛生担当者 チェック▼ チェック▼

重点実施項目	具体的な取組事項	活動のポイント	目標値	推進者	スケジュール (1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月)
＜ 期 間 活 動 ＞					2・0/第99回災絶 / 62日/第100回災絶 / 2・0/第101回災 / 環境月間 安全週間 / 労働衛生週間
1. 安全ルールと規律を守り、安全最優先行動ができる「人づくり」(人)	1)共通遵守事項6則の確実な実行と指導強化	■確認シートによる「6則」の徹底遵守と特例作業の明確化とノータッチ化の推進及び管理・監督者による確認とイエローカードを使用した指導強化	職場にて設定	管理・監督者	パトロールにて確認・指導
	2)作業前の確実なTBM・KYの実施と掲示による見える化	■突発作業・作業変更時や付帯的な作業についても確実なTBM・KYの実施と掲示板を活用した見える化を徹底(記録を残す)	完全定着	管理・監督者	パトロールにて確認・指導
	3)個々人の安全感性向上に向けた教育の推進	■危険予知及びリスクアセスメント教育の計画的な実施	対象者全員	安全スタッフ	計画・実施 / 計画・実施
		■ビデオKY等、動画撮影を利用した客観的な振り返りによるリスクの発見と一人ひとりのKY能力の向上及び高リスク作業における不安全行動の監視強化	対象者全員	安全スタッフ	ヘルメットカメラや定点カメラを活用した動画撮影と振り返り
		■安全デモスト・演練の定期的な企画・開催による体感教育の実施	職場にて設定	安全スタッフ	企画・開催 / 企画・開催 / 企画・開催 / 企画・開催
2. 直協一体となった規律ある・風通しの良い「職場づくり」(仲間・環境・ソフト)	1)ｽﾓｰﾙﾐｰﾃｨﾝｸﾞと対話活動を通じた職場の弱点掬い上げと改善	■スモールMTにて、作業者が感じる「やりにくい作業」や「危ない設備・道工具」、「作業環境の悪い場所」を徹底的に抽出、整理し改善を実施	1回／月	管理・監督者	小集団単位での本音の徹底対話
	2)大きな声出し運動の定着	■大きな声での相互注意、元気な挨拶、確実な指差呼称、復唱応答による相互連絡の徹底	対象者全員	安全スタッフ	優秀者の推薦と表彰 / 優秀者の推薦と表彰
	3)安全作業手順書(施工計画書含む)の見直しと完遂	■安全作業手順書の計画的な見直しと弱経験者を中心とした教育の実施	職場にて設定	管理・監督者	計画的な見直しと教育の徹底
	4)施工計画の具体化と節目TBMによる指示の明確化	■工責、工連、指揮者による具体的な作業方法、役割分担の明確な指示の徹底	職場にて設定	管理・監督者	パトロールにて確認・指導
	5)職場内の見える化の推進	■作業者を意識した見える化の推進によるリスクの低減	職場にて設定	管理・監督者	職場計画に基づき推進
3. 災害リスクの抽出と徹底排除で、安心・安全な「ものづくり」(ハード・環境)	1)リスクアセスメントの強化によるリスクの低減・排除	■SRA活動の活性化による潜在リスクの洗い出しと安全対策の徹底	2件以上／期	全員	SRAの活性化(2件／四半期) 結果を安全環境Gへ随時提出
	2)設備・作業改善による本質安全化の推進	■対話やパトロール、スモールMTやSRAで抽出したリスクについて、リスト化し優先順位を付け、主管とも連携し、本質安全化に向けた早期改善を行う	職場にて設定	管理者	本質安全化の推進
4. 作業・職場環境の快適化と心身の「健康づくり」(人・環境)	1)はつらつ健康運動を通じた健康・体力の維持増進	■HKKにおける個人目標2本立て(生活、運動)の徹底と職場フォローの実践	1回／月 フォロー	安全スタッフ	個人目標に対する毎月の職場フォローを実施
	2)個人と職場ぐるみのメンタルヘルス活動の推進	■メンタルヘルスのための職場環境改善計画(トライアル活動)の推進	職場にて設定	管理者	◎トライアル活動の計画・推進 / ◎ストレスチェック実施 / ◎トライアルの反省
	3)熱中症対策と粉塵、受動喫煙防止対策等 作業・職場環境の計画的改善	■熱中症予防のための作業基準の遵守と徹底した防止対策の推進	100%	安全スタッフ	作業時間管理と水分塩分補給の徹底
		■作業環境測定の確実な実施と計画的な環境整備の推進	1回／半年	全員	測定と改善実行 / 測定と改善実行
5. 防災取組みの確実な実践	1)防災に強い人づくりの推進	■防災事故要因排除活動に則り計画的に実施(防災教育・防災訓練・体感教育・異常時の対応等)	1回以上/期間中	係長	計画的な推進
	2)工事用火気管理の徹底・実践	■工事用火気使用時の所内ルールの遵守徹底	対象者全員	管理・監督者	パトロールにて確認・指導